

二〇二〇年度 早稲田大学大学院教育学研究科
 修士課程 外国学生入学試験問題 「専門科目」〔国語教育専攻〕

解答上の注意

- 一. 国語教育専攻の入学試験問題は、「専門科目・選択」（配点60％）と「専門科目・共通」（配点40％）に分かれています。
- ①「専門科目・選択」は、出願時に届け出た研究指導・指導教員の専門分野により、左記の表の「解答すべき問題」（選択一〜選択八）を解答しなさい。なお、「解答すべき問題」以外を解答した場合、当該解答は「0点」となります。

志願票に記入した 研究指導名	志願票に記入した 指導希望教員名	「専門科目・選択」で 解答すべき問題
国語科教育研究指導	幸田 国広	選択一 国語教育
国語科教育研究指導	町田 守弘	選択二 日本語学（日本語教育を含む）
日本語学研究指導	松本 正恵	選択三 古典文学 I 上代文学
国文学研究指導	松本 直樹	選択四 古典文学 II 中古文学
国文学研究指導	新美 哲彦	選択五 古典文学 III 中世文学
国文学研究指導	福家 俊幸	選択六 古典文学 IV 近世文学
国文学研究指導	大津 雄一	選択七 中国古典文学
国文学研究指導	田淵 句美子	選択八 近代文学
国文学研究指導	中嶋 隆	
国文学研究指導	内山 精也	
国文学研究指導	堀 誠	
国文学研究指導	石原 千秋	
国文学研究指導	金井 景子	
国文学研究指導	五味 淵 典嗣	
国文学研究指導	和田 敦彦	

②「専門科目・共通」は、出願時に届け出た研究指導・指導教員の専門分野により、左記の表の「解答すべき問題」（共通A〜Fのいずれか一問）を解答しなさい。なお、「解答すべき問題」以外を解答した場合、当該解答は「0点」となります。

志願票に記入した 研究指導名	志願票に記入した 指導希望教員名	「専門科目・共通」で 解答すべき問題
日本語学研究指導	松本 正恵	共通A 日本語学（日本語教育を含む）
国文学研究指導	松本 直樹	共通B 古典文学 I 上代文学
国文学研究指導	中嶋 隆	共通C 古典文学 IV 近世文学
国文学研究指導	堀 誠	共通D 中国古典文学
国文学研究指導	石原 千秋	共通E 近代文学
国文学研究指導	五味 淵 典嗣	共通F 近代文学

- 二. 解答用紙は、「問題番号」ごとに一枚使用すること。全ての解答用紙の所定欄に、受験番号・氏名・研究指導名・指導教員名、ならびに「問題番号」（例「選択八」・「共通A」など）を必ず記入すること。
- 三. 解答用紙のホッチキスは、はずさないこと。また、無解答の解答用紙でも提出すること。
- 四. 問題用紙は「十八枚」（本ページ含む）、解答用紙は「二枚」です。必ず枚数を確認すること。

以上

二〇二〇年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 一般・外国学生入学試験問題
「専門科目・選択」 【国語教育専攻】

〔 選択一 〕 国語教育

※解答に際しては選択した問題番号を明記すること。

一、次のA～Hのうちから三題を選び、それぞれ簡潔に説明しなさい。

- | | | | |
|---|--------------|---|-------------|
| A | ワードハンティング | B | 学力の3要素 |
| C | 調べる綴方 | D | 探究的な学習のプロセス |
| E | 筆者想定法 | F | 大村はま |
| G | リーディングスキルテスト | H | 「イエスシ」読本 |

二、次のI～Nのうちから二題を選び、具体的に論じなさい。

- | | |
|---|----------------------------|
| I | 時枝誠記の古典教育観 |
| J | 昭和三十五年版高等学校学習指導要領国語編の歴史的意義 |
| K | 一九〇〇年「国語科」の成立 |
| L | 「現代の国語」と「言語文化」の性格 |
| M | 「言葉による見方・考え方」とは何か |
| N | 言語発達における「二次的ことば」 |

三、高校一年生の「国語総合」を担当しているA先生は、ジグソー法によって、芥川龍之介の三つの短編小説を読み深める単元を構想した。その際、指導目標と評価規準を「話す力」の観点で設定し、全五時間の指導計画を立てた。ところが、同じ国語科のB先生から疑義が出された。B先生の疑義がどのようなものと考えられるかを推測し、国語科の単元指導を系統的・計画的に行うための原則を示した上で、「国語総合」における総合的な言語能力の育成について論じなさい。

二〇二〇年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 一般・外国学生入学試験問題
【専門科目・選択】 【国語教育専攻】

〔選択二〕 日本語学

一 次のA～Lの事項のうちから四題を選び、説明しなさい。

- | | | |
|---------|-----------|---------------|
| A 三上章 | B キリシタン資料 | C アスペクト |
| D 『蝸牛考』 | E 気づかない方言 | F パターン・プラクティス |
| G フイラー | H 歴史的仮名遣い | I チョムスキー |
| J 神代文字 | K 談話分析 | L 連体形終止法の一般化 |

二 次のM～Oのうちから一題を選び、具体的に論じなさい。

- M ハ行子音の変化とハ行転呼音について
N 日本語の語彙の多様性（特に語種の観点から）について
O 日本語における動詞の自他（自動詞・他動詞）の問題について

三 日本語学とはどのような学問か。専門外の人にもわかりやすいように、具体例を交えながら、学問領域・研究対象・研究方法・研究の意義等について多角的に述べなさい。

二〇二〇年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 一般・外国学生入学試験問題
【専門科目・選択】 【国語教育専攻】

〔選択三〕 古典文学 (I) 上代文学問題

一、次の (A) ～ (D) のうちから、二題を選択して論述しなさい。解答の際には、選択した問題番号を明記すること。

- (A) 『古事記』の成立事情
- (B) 「山川原野名号所由」
- (C) 『日本書紀』神代卷の一書
- (D) 『萬葉集』卷一

二、次の (E) ～ (K) のうちから、三題を選択して簡潔に (一題あたり解答用紙五行以内) 説明しなさい。解答の際には、選択した問題番号を明記すること。

- (E) メルシナ型神話 (F) 海幸山幸神話 (G) 雄略天皇 (H) 東歌
- (I) 大伴旅人 (J) 国見歌 (K) 『播磨国風土記』

三、上代文学を研究し、また国語科の教材とすることの意義について、具体例を示しながら、あなたの考えを簡潔に (解答用紙一〇行以内) 述べなさい。

(上代文学問題 以上)

二〇二〇年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 一般・外国学生入学試験問題
「専門科目・選択」 【国語教育専攻】

〔選択 四〕 古典文学(Ⅱ) 中古文学

解答に際しては選択した問題番号を明記すること。

一、次の(A)～(D)のうち、二題を選択して論述せよ。

- (A) 『伊勢物語』の「昔男」の特質
- (B) 『更級日記』と物語
- (C) 『源氏物語』の三部構成論
- (D) 『源氏物語』の諸本研究の意義

二、次の(E)～(M)のうち三題を選択して、簡潔に説明せよ。

- (E) 『落窪物語』
- (F) 『伊勢集』
- (G) 『夜の寝覚』
- (H) 『大鏡』
- (I) 『土佐日記』
- (J) 『讃岐典侍日記』
- (K) 藤原彰子
- (L) 物語文学の語り
- (M) 平安時代の文学における女房

三、中古文学を学校教育で学ぶ意義とは何か、あなたの考えを述べよ。

二〇二〇年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 一般・外国学生入学試験問題
【専門科目・選択】 【国語教育専攻】

〔選択五〕 古典文学 (Ⅲ) 中世文学

一、次の①～⑧の中から二題を選択して、詳しく論述しなさい。

- ① 軍記物語の文学史的展開について
- ② 説話集の文学史的展開について
- ③ 仏教と中世文学とのかかわりについて
- ④ 『平家物語』の文学的特質について
- ⑤ 『堀河百首』の和歌史的意義について
- ⑥ 中世の勅撰和歌集の撰者について
- ⑦ 女訓書の成立と展開について
- ⑧ 両統迭立と文学について

二、次の①～⑩の中から三題を選択して、簡潔に説明しなさい。

- ① 太平記
- ② 方丈記
- ③ 愚管抄
- ④ 宇治拾遺物語
- ⑤ 義経記
- ⑥ 無名抄
- ⑦ 物語二百番歌合
- ⑧ 続古今和歌集
- ⑨ 弁内侍日記
- ⑩ 野守鏡

二〇二〇年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 一般・外国学生入学試験問題
「専門科目・選択」 【国語教育専攻】

【選択六】 古典文学（Ⅳ） 近世文学

一、井原西鶴・松尾芭蕉・近松門左衛門・上田秋成・与謝蕪村・鶴屋南北・山東京伝・滝沢馬琴・大田南畝の中から、一人を選び、その文芸の特徴と文学史上の位置について、自由に論じなさい。

二、次の（1）～（7）の中から、一題を選択し、論述しなさい。

- （1）井原西鶴の「好色物」の概要と特徴について、作品名をあげて具体的に述べよ。
- （2）芭蕉俳諧における旅の意義について、『奥の細道』を例にして述べよ。
- （3）近松門左衛門「世話物」浄瑠璃の作品名を二つ以上あげ、その概要と特徴について述べよ。
- （4）柳亭種彦の文芸活動と天保改革の影響について述べよ。
- （5）山東京伝の文芸活動と寛政改革の影響について述べよ。
- （6）鶴屋南北の代表作を二つ以上あげ、その特徴について述べよ。
- （7）上田秋成『雨月物語』『春雨物語』の概要と創作方法の特徴について述べよ。

三、次の（8）～（16）の中から、三題を選択し、簡潔に説明せよ。

- | | | |
|-------------|--------------|--------------|
| （8） 浮世物語 | （9） 世間胸算用 | （10） 武家義理物語 |
| （11） 猿蓑 | （12） 浮世風呂 | （13） 修紫田舎源氏 |
| （14） 春色梅児誉美 | （15） 金々先生栄花夢 | （16） 南総里見八犬伝 |

二〇二〇年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 一般・外国学生入学試験問題
【専門科目・選択】 【国語教育専攻】

〔選択七〕 中国古典文学 問題

一 唐・白居易「與元九書」の一節である。この文を読んで、設問に答えなさい。

僕數月來、檢討囊裘中、得新舊詩各以類分、分爲卷目。自拾遺來、凡所遇所感、^①關於美刺興比者、又自武德訖元和、因事立題、題爲新樂府者、共一百五十首、謂之諷諭詩。又或退公獨處、或移病閑居、知足保和、吟玩情性者一百首、謂之閑適詩。又有事物牽於外、情理動於內、隨感遇而形於歎詠者一百首、謂之A詩。又有五言七言長句絕句、自一百韻至兩韻者四百餘首、謂之雜律詩。凡爲十五卷、約八百首。異時相見、當盡致於執事。微之、古人云、一窮則獨善其身、達則兼濟天下。僕雖不肖、常師此語。大丈夫所守者道、所待時。

* 1 囊裘……物入れや文書袋。

* 2 拾遺……官職の名。皇帝に直言し失政を諫めることを職務とする。

* 2 武德訖元和……「武德」・「元和」は唐の元号。唐の建国以来、この文が書かれた元和の時代までの意。

〔設問一〕空欄Aに最も相応しい語句を、次の語句群の中から一つ選び、解答欄に記しなさい。

・ 闕怨 ・ 懷古 ・ 詠懷 ・ 邊塞 ・ 感傷 ・ 卽事

〔設問二〕傍線①「關於……比者」について、簡潔に説明しなさい。

〔設問三〕傍線②「或退……適詩」を、口語訳しなさい。

〔設問四〕傍線③「微之」は、白居易がこの書簡を寄せた相手の字である。この人物の氏名を記しなさい。

〔設問五〕傍線④「窮則……天下」を、書き下し文にするか、現代中国語の発音記号（ピンイン）で書くか、いずれかを選んで答えよ。

二 次のア～オの中から一つを選択し、その記号を解答欄に記した上で、説明ならびにあなたの考えを記しなさい。

ア 「文言」と「白話」の相違について

イ 「詩」と「詞」の相違について

ウ 中国文学における女性作家について

エ 日中比較文学の方法について

オ 学校教育における「漢文」教材について

三 次の(A)～(J)の中から三つの項目を選び、それぞれの文学史ないしは文化史的意味を中心に説明しなさい。

(A) 詩経の六義

(B) 会意文字

(C) 『文選』

(D) 志怪小説

(E) 古文

(F) 『文鏡秘府論』

(G) 蘇黄

(H) 四大奇書

(I) 菅原道真

(J) 文学改良芻議

二〇二〇年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 一般・外国学生入学試験問題
【専門科目・選択】 【国語教育専攻】

【選択八 近代文学】

一 日本近代文学における表現の変遷について、あなたの考えるところを述べなさい。

二次の(A)～(E)の中から一題を選択して論じなさい。

- (A) 文学における言文一致について
- (B) 夏目漱石の新聞小説について
- (C) 新感覚派の文学について
- (D) 「文芸復興期」について
- (E) 「読者論」について

三次の(A)～(G)の中から三題を選択して説明しなさい。

(「」は作品名、『』は雑誌名を示す)

- | | | |
|-----------|----------|------------|
| (A) 『新思潮』 | (B) 「雁」 | (C) 林芙美子 |
| (D) 『新青年』 | (E) 「檸檬」 | (F) 「人間失格」 |
| (G) 安部公房 | | |

二〇二〇年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 外国学生入学試験問題
【専門科目・共通】 【国語教育専攻】

〔共通A〕 日本語学（含日本語教育） 松木正恵

次の文章は、南不二男『現代日本語の構造』（大修館書店 一九七四）第四章「文の構造」の第二節「文の二つの側面」から引用している。（部分的に改変・省略したところがある。）この文章を読んで、後の問いに答えなさい。

※この問題は、著作権の関係により掲載できません。

二〇二〇年度 早稲田大学大学院教育学研究科

修士課程 外国学生入学試験問題

「専門科目・共通」

「国語教育専攻」

※この問題は、著作権の関係により掲載できません。

二〇二〇年度 早稲田大学大学院教育学研究科

修士課程 外国学生入学試験問題

「専門科目・共通」

【国語教育専攻】

問1 空欄 ① ④ に、「ディクトウム」か「モドウス」のいずれかの用語を入れなさい。

問2 括弧 (X) (Y) (Z) にそれぞれ、著名な日本語研究者の氏名を入れなさい。(なお、本文中に手書きで記載された「X」「Y」「Z」は、それぞれこの研究者の姓を指している。)

問3 傍線部アについて、助動詞「らしい・ない・た」が叙述と陳述両方にまたがるとはどのような意味か。具体的な例文を示しながら、詳しく説明しなさい。

問4 傍線部イについて、芳賀綾が「述定」「伝達」と呼んだ具体的な表現例を、それぞれ五つずつ挙げなさい。

問5 傍線部ウについて、林四郎が区別した四つの段階(「描叙段階」・「判断段階」・「表出段階」・「伝達段階」)を、具体的な日本語表現に当てはめるとしたらどのようなように区分されると考えられるか。次の例文を用いて、各段階の区分を当てはめながら具体的に説明するとともに、この段階区分の特徴についても述べなさい。

もしもし、お願いがあるんですが、実は、あのー、何とか、ひとつ、その品物をゆずっていただくことはできないものでしょうか。

問6 傍線部エについて、「Yの詞と辞の区別の論は別として」と書かれているのはなぜか。Yの論では、分析の重点が必ずしも文の末尾の述語部分にのみあるわけではないことを示唆していると思われるが、具体的にはYの論のどのような点を指しているのか。具体例を挙げて説明しなさい。

問7 傍線部オにあるような考え方に基づき、南不二男は、この著書の後の部分で、従属句の分類とその段階性について詳細な分析を行っている。南が用いた具体的な段階名を示しながら、その内容をわかりやすく紹介するとともに、その研究が後世の文法研究に与えた影響についても言及しなさい。

二〇二〇年度 早稲田大学大学院教育学研究科

修士課程 外国学生入学試験問題

「専門科目・共通」 「国語教育専攻」

〔共通B〕 上代文学（松本直樹）

（注意）設問および問の番号を明記した上で、各解答を記すこと。

設問一 次の文章は『古事記』上巻のスサノヲの神話の一節である。真福寺本を底本とした原文に返り点と句読点を施してある。括弧内は割注である。よく読んで後の問いに答えなさい。

故是以、其速須佐之男命、官可^ニ造作^一之地、求^ニ出雲国^一。尔到^ニ坐須賀^一（此^ニ二字以^レ音。下效^レ此^一）地^一而、詔之、
A吾来^ニ此地^一、我御心須々賀々朔而、其地作^レ官坐。故其地者於^レ今云^ニ須賀^一也。玆大神初作^ニ須賀官^一之時、自^ニ其地^一雲立騰。尔作^ニ御歌^一。其歌曰、B夜久毛多都 伊豆毛夜弊賀岐 都麻基微尔 夜弊賀岐都久流 曾能夜弊賀岐

問1 傍線部Aを意味の通る漢字仮名交りの書き下し文にしなさい。

問2 傍線部Bを意味の通る漢字仮名交りの書き下し文にしなさい。

問3 この文章から分かる『古事記』の文体の特徴について、具体例を示しながら簡潔に論述しなさい。（解答用紙4～5行程度）

設問二 次の文章は本居宣長『古事記伝』の一節である。よく読んで後の問いに答えなさい。

さて此記（古事記）は、字の文をもかざらずて、もはら古語をむねとはして、古の実のありさまを失はじと勤たること、序に見え、又今次々に云が如し。然るに彼書紀いできてより、C世人おしなべて、彼をのみ尊み用ひて、此記は名をだに知ぬも多し。其所以はいかにといふに、漢籍の学問さかりに行はれて、何事も彼国のさまをのみ、人毎にうらやみ好むからに、書紀の、その漢国の国史と云ふみのさまに似たるをよろこびて、此記のすなほなるを見ては、正しき国史の体にあらずなど云て、取すなりぬるもので。

或人、かく云をあやしみて問けらく、「D此記いできていくばくもあらざるに、又書紀を撰しめ賜へるは、此記に誤あるが故ならじやは」。己答けらく、「然にはあらじ。此記あるうへに、更に書紀を撰しめ賜へるは、そのかみ公にも、漢学問を盛に好ませたまふをりからなりしかば、此記のあまりたゞありに飾なくて、かの漢の国史どもにくらぶれば、見だてなく淺々と聞ゆるを、不足おもほして、更に広く事どもを考へ加へ、年紀を立などし、はた漢めかしき語どもかざり添などとして、漢文章をなして、かしこのに似たる国史と立むためにぞ、撰しめ賜へりけむ」。

問1 傍線部Cを「彼」「此」の指示内容が分かるように現代日本語に訳しなさい。

問2 傍線部Dを「此」の指示内容が分かるように現代日本語に訳しなさい。

問3 本居宣長は、『古事記』と『日本書紀』の内容や文章について、それぞれの特徴をどのように捉えているか。簡潔に纏めなさい。（解答用紙4～5行程度）

（共通Bの問題は以上）

二〇二〇年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 外国学生入学試験問題
【専門科目・共通】 【国語教育専攻】

【共通C】 近世文学（中嶋 隆）

（問題） 次の文章は、井原西鶴『西鶴諸国ばなし』についての記述である。これを読んで、後の問いに答えなさい。解答の際には、問いの番号を明記すること。

※この問題は、著作権の関係により掲載ができません。

（暉峻康隆編『鑑賞日本古典文学 西鶴』より）

- 問一 傍線部の書誌用語、A内題 B柱刻 D題簽について、それぞれ簡潔に説明せよ。
- 問二 Cには、漢字六字の説話集が入る。その説話集を漢字で記せ。
- 問三 Eには、漢字四字の文学史用語が入る。その用語を漢字で記せ。
- 問四 FとGには、咄家の名前が入る。その咄家名をそれぞれ記せ。
- 問五 傍線部H「黒田侯御帰国ノ時、大坂ノ御屋敷へ召シテ次ニテハナサセ聞キ玉ヒ、世上へ出シ、使番、聞番、留守居ノ役ニイ、ツケ侍ラバ、カユキ所へ手ノトゞクヤウニアラン人ガラト称シ玉フヨシ」を現代語訳せよ。

二〇二〇年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 外国学生入学試験問題
【専門科目・共通】 【国語教育専攻】

〔共通D〕 中国古典文学 （堀 誠）

次に示すのは、「阿倍仲麻呂の青春」（王勇『唐から見た遣唐使』所収）と題する文の一節である。よく読んで、後の問いに答えなさい。

※この問題は、著作権の関係により掲載ができません。

二〇二〇年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 外国学生入学試験問題
【専門科目・共通】 【国語教育専攻】

※この問題は、著作権の関係により掲載ができません。

問一 阿倍仲麻呂の生涯に関して、どのようなことが書かれているか。よく読んでまとめなさい。

問二 次の文に関する（イ）（ロ）の問いに答えなさい。

次の和歌は、阿倍仲麻呂が唐の地で望郷の思いを詠んだ作といわれる。

天あまの原はらふりさけ見れば春かすが日かなる三笠みかさの山にいでし月かも

この和歌は、勅撰和歌集として最初に編纂された『A』に入集し、また『B』の『土佐日記』には初句を「青海原」として出ている。

（イ）この和歌の意味を説明しなさい。

（ロ）空欄Aには書名を、空欄Bには人名を、それぞれ入れなさい。

問三 「遣唐使」の廃止を建議した人物は、学問の神としても知られる。この人物は誰か、答えなさい。

問四 「玄宗」の政治とロマンスについて、知るところを書きなさい。その際、「安祿山」「楊貴妃」「白居易」という人名を用いること。

問五 「王維」について、あなたが読んだことのある詩篇を紹介しながら、説明しなさい。

【以上】

二〇二〇年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 外国学生入学試験問題
【国語教育専攻】
「専門科目・共通」

【共通E】

(これは研究指導に「石原千秋」を希望する受験生のための問題です。)

以下に示すのは夏目漱石『道草』(一九一五年)の第一章の全文です。「健三」はイギリス留学から帰国したばかりの大学教授のようです。この日彼が出会ったのは、幼いときの養父です。これを読んであとの問に答えなさい。

健三が遠い所から帰って来て駒込の奥に世帯を持ったのは東京を出てから何年目になるだろう。彼は故郷の土を踏む珍らしさのうちに一種の淋し味さえ感じた。

彼の身体には新しく後に見捨てた遠い国の臭がまだ付着していた。彼はそれを忌んだ。一日も早くその臭を振り落さなければならぬと思った。そうしてその臭のうちに潜んでいる彼の誇りと満足には却って気が付かなかった。

彼はこうした気分を有った人に有勝な落付のない態度で、千駄木から追分へ出る通りを日に二返ずつ規則のように往來した。

ある日小雨が降った。その時彼は外套も雨具も着けずに、ただ傘を差しただけで、何時もの通りを本郷の方へ例刻に歩いて行つた。すると車屋の少しさきで思い懸けない人にはたりと出会つた。その人は根津権現の裏門の坂を上つて、彼と反対に北へ向いて歩いて来たものと見えて、健三が行手を何気なく眺めた時、十間位先から既に彼の視線に入つたのである。そうして思わず彼の眼をわきへ外させたのである。

彼は知らん顔をしてその人の傍を通り抜けようとした。けれども彼にはもう一遍この男の眼鼻立を確かめる必要があつた。それで御互が二三間の距離に近づいた頃又眸をその人の方角に向けた。すると先方ではもう疾くに彼の姿を凝と見詰めていた。

往來は静であつた。二人の間にはただ細い雨の糸が絶間なく落ちていた。御互が御互の顔を認めるには何の困難もなかった。健三はすぐ眼をそらして又真正面を向いたまま歩き出した。けれども相手は道端に立ち留まつたなり、少しも足を運ぶ気色なく、じつと彼の通り過ぎるのを見送つていた。健三はその男の顔が彼の歩調につれて、少しずつ動いて回るのに気が着いた位であつた。

彼はこの男に何年会わなかつたらう。彼がこの男と縁を切つたのは、彼がまだ二十歳になるかならない昔の事であつた。それから今日までに十五年の月日が経っているが、その間彼等はいそ一度も顔を合せた事がなかつたのである。

彼の位地も境遇もその時分から見るとまるで變つていた。黒い髭を生して山高帽を被つた今の姿と坊主頭の昔の面影とを比べて見ると、自分でさえ隔世の感が起らないとも限らなかつた。然しそれにしては相手の方があまりに変らな過ぎた。彼はどう勘定しても六十五六であるべき筈のその人の髪の毛が、何故今でも元の通り黒いのだらうと思つて、心のうちで怪しんだ。帽子なしで外出する昔ながらの癖を今でも押通しているその人の特色も、彼には異な気分を与える媒介となつた。

彼は固よりその人に出会う事を好まなかつた。万一出会つてもその人が自分より立派な服装でもして呉れば好いと思つていた。然し今日前見たその人は、あまり裕福な境遇に居るとは誰が見ても決して思えなかつた。帽子を被らないのは当人の自由としても、羽織なり着物なりに就いて判断したところ、どうしても中流以下の活計を営んでいる町家の年寄としか受取れなかつた。彼はその人の差していた洋傘が、重そうな毛織子であつた事にまで気が付いていた。

その日彼は家へ帰つても途中で会つた男の事を忘れ得なかつた。折々は道端へ立ち止まつて凝と彼を見送つていたその人の眼付に悩まされた。然し細君には何にも打ち明けなかつた。機嫌のよくない時は、いくら話したい事があつても、細君に話さないのが彼の癖であつた。細君も黙つている夫に対しては、用事の外決して口を利かない女であつた。

問一 健三と養父との関係はどのようなものと想像できるだろうか。語り方を参考にして、答えなさい。

問二 健三と細君との関係はどのようなものと想像できるだろうか。語り方を参考にして、答えなさい。

【共通F】

次の文章は、前田愛「啄木における都市の発見」の一節である。文章を読んで、後の問いに答えなさい。

石川啄木の『一握の砂』『悲しき玩具』が停車場・公園・病院・新聞社・銀行・電車・電話など、さまざまな都市の装置を彼以前のどの歌人よりも大胆に歌材として選びとっていることは、あらためて指摘するまでもないだろう。短歌における都市の発見は、啄木にはじまるといっても言い過ぎではない。

啄木は、彼自身の心を共鳴板として、ムラ共同体の絆から切りはなされてしまった都市の「孤独な群衆」の心を歌いあげた。彼のやわらかい心に突き刺さった都会風景の破片たちは、二つの歌集のいたるところで不思議な蛍光を放っている。

啄木にとって、彼の視線がとらえた都市の風景ないしは都市の住人は、同時にまた彼をみつめかえしてくる冷やかなまなざしでもあった。「鏡屋の前に来て／ふと驚きぬ／見すばらしげに歩むものかも」「われ飢えてある日に／細き尾を掉りて／飢えて我を見る犬の面よし」——この二つの歌の主題は、鏡像の恐怖、あるいは戯れであるが、見るものが容易に見られるものに変換する機構は、都市の街路が視線の劇場として、そこに生活する人びとの強迫観念を促したてていることを示している。走る街路としての電車は、座席が固定されているだけに、いつそう堪えがたい視線の劇が演じられることになるだろう。

いつも逢ふ電車の中の小男の

稜ある眼

このごろ気になる ……A

小男の「稜ある眼」は、おそらく啄木自身のものでもあるにちがいない。お互いに一語も交わしあうことなく敵意をこめた視線を注ぎあう負のコミュニケーション。そうした人間関係をつくりだす場としての市電が東京市中を走りはじめたのは、『一握の砂』の出版からわずか六年前の明治三十七年だった。田山花袋が啄木よりも一足はやく、甲武線の電車のなかで、視線に耽る中年男を戯画化した短篇「少女病」を書いたのは明治四十年である。

しかし、その一方で啄木は都市がつくりだす見知らぬ他者との無数の出会いにこだわりつづけた詩人だった。おそらく北海道を漂泊していたときに体験したさまざまな出会いの記憶が、東京の生活のなかにも生きていたのだろう。「夜おそく停車場に入り／立ち坐り／やがて出でゆきぬ帽なき男」「公園の隅のベンチに／二度ばかり見かけし男／このごろ見えず」「忘れぬ顔なりしかな／今日街に／捕吏にひかれて笑める男は」「路傍の切石の上に／腕挟みて／空を見上ぐる男ありたり」「つと暗き小路を出でて／街燈を見あげし女／下谷の女」——互いに言葉をかけあうこともなくすれちがったこれらの他者たちは、視覚的な記憶の痕跡を啄木の心にとどめただけで、その実体は都会の雑踏のなかにまぎれてしまった。そうした一瞬の出会いの後に視界から永久に消えてしまうかれらと啄木とは同じ都市居住者としての宿命をわかちもっている。「いつとなく我にあゆみ寄り、／手を握り、／またいつとなく去りゆく人人！」——この歌に語られているのは、都市で育てあげられた人間関係は、結局、この街なかでの行きずりの出会いのメタファーでしかないという啄木の苦い認識である。

問一 本文の内容を踏まえて、Aの短歌の解釈を記しなさい。

問二 傍線部「都市居住者としての宿命」とあるが、どういうことか。本文中の語句を用いて説明しなさい。

問三 日本近代文学の中で「都市」を描いた作品を一つ取りあげ、そこにどんな「都市の風景ないし都市の住人」が描かれたか、あなたの知るところを述べなさい。